

別府ONSENアカデミア（シンポジウム） 実施報告書



主催：別府ONSENアカデミア実行委員会 後援：経済産業省、環境省、観光庁、大分県、温泉所在都市協議会（予定含む）

平成29年1月31日

目次

開催概要	2
プログラム	3
開会式	4～5
記念講演	6～7
全体会	8～10
来場者アンケート	11～12
分科会Ⅰ	13～16
分科会Ⅱ	17～18
分科会Ⅲ	19～22
全体会	24
特別講演	25
エントランスホールでの催し	26～28
歓迎レセプション	29～30
エキスカーション	31～32



開催概要

【名 称】 別府ONSENアカデミア シンポジウム

【会 期】 平成28年年11月21日(月)・22日(火)

【会 場】 別府国際コンベンションセンター ビーコンプラザ
〒874-0828 大分県別府市山の手町12番1号
TEL : 0977-26-7111 FAX: 0977-26-7100

【主 催】 別府ONSENアカデミア実行委員会
大分交通(株)別府営業所、亀の井バス(株)、観光施設連絡協議会、九州大学病院別府病院、
NPO法人 自立支援センターおおいた、別府国際コンベンションセンター、別府市、(一社)別府市医師会、(一社)別府市観光協会、別府商工会議所、別府市旅館ホテル組合連合会、別府大学、別府八湯ウォーク連絡協議会、NPO法人 別府八湯温泉道名人会、別府八湯温泉まつり実行委員会、NPO法人 別府八湯トラスト、NPO法人 BEPPU PROJECT、別府溝部学園短期大学、べっぷ旅館女将の会、立命館アジア太平洋大学(五十音順)

【後 援】 経済産業省、環境省、大分県、全国温泉所在都市協議会

【参加者】 一般、招待者

【問い合わせ先】 別府ONSENアカデミア実行委員会(事務局:別府市観光課 TEL:0977-21-1128)

【内 容】 11月21日(月)	◎開会式
	◎記念講演
	◎全体会
	◎トーク&ファッションショー
	◎歓迎レセプション
11月22日(火)	◎分科会I
	◎分科会II
	◎分科会III
	◎全体会
	◎特別講演

プログラム

No.	日時	会種	会場	テーマ	講演者	定員
1	11月21日（月） 13:00～13:30	開会式	フィルハーモニア ホール	開会行事	・開会あいさつ 別府市長 長野 恭敏（別府ONSENアカデミア実行委員長） ・御来賓あいさつ	600人
2	11月21日（月） 13:30～15:00	記念講演	フィルハーモニア ホール	世界の温泉地の現状と課題 ・『世界一の露天風呂ブルーラグーン』 ・『ニュージーランドにおけるツーリズムの 誕生地ロトルア』	・アイスランド特命全權大使 ハンネス・ヘイミソン氏 ・ニュージーランド ロトルア市長 スティープ・チャドウィック氏	
3	11月21日（月） 15:30～17:30	全体会	国際会議室	全国の温泉地首長による温泉会議 「温泉地におけるインバウンド対応」	パネリスト：全国温泉地の首長 11名 コメンテーター：東海大学海洋学部海洋文明学科教授 斉藤 雅樹氏 環境省自然環境整備課温泉地保護利用推進室長 中島 尚子氏 コーディネーター：別府市長 長野 恭敏	200人
	11月21日（月） 17:30～18:30	温泉所在 都市協議会理事会	小会議室32		全国温泉地の首長 11名 別府市長 長野 恭敏	
	11月21日（月） 18:30～20:30	歓迎 レセプション	レセプションホール			
4-1	11月22日（火） 9:00～11:00	分科会Ⅰ	国際会議室	第一部 9:00～9:30 「せーので測ろう！ 別府市全域温泉一斉調査」報告会	・別府温泉地球博物館理事長（京都大学名誉教授） 由佐 悠紀 氏	200人
				第二部 9:30～11:00 「温泉エネルギーの活用と 保護について考える」	【パネリスト】 国立研究開発法人産業技術総合研究所 名誉リサーチャー 野田 徹郎氏 一般社団法人日本温泉協会常務副会長 佐藤 好徳氏 別府大学教授 阿部博光氏 立命館アジア太平洋大学準教授 銭 学鵬氏 環境省自然環境整備課温泉地保護利用推進室長 中島 尚子氏 【コーディネーター】 温泉アナリスト 北出 恭子氏	
4-2	11月22日（火） 9:00～11:00	分科会Ⅱ	中会議室	「健康寿命延伸と運動効果を高めるONSENの展望 ～温泉と医療、健康、スポーツの現状～」 1. 温泉で元気づくり 2. 温泉の活用効果について 3. スポーツヘルス・メディカルツーリズム	1. 合同会社元気づくり支援研究会 健康運動指導士 木元 雪絵氏 2. 九州大学病院別府病院准教授 医師 前田 豊樹氏 3. 西別府病院スポーツ医学センター長 松田 貴雄氏	100人
4-3	11月22日（火） 9:00～11:00	分科会ⅢⅠ	小会議室3 1	第一部 9:00～9:30 「共同浴場に関するアンケート調査 の結果について」	【講演者】 別府八湯温泉道名人会理事長 佐藤 正敏氏	100人
				第二部 9:30～11:00 「別府の共同浴場の現状と今後の課題 ～別府八湯温泉道が 地域にもたらす意味～」	【パネリスト】 別府八湯温泉道名人会 理事長 佐藤 正敏氏 梅園温泉再建委員会 委員長 平野 芳弘氏 弓松温泉管理人 渡部 隆一氏 末広温泉管理人 阿部 保氏 湯都ピア浜脇館長 南 達也氏 司会：松崎 沙織氏 【コーディネーター】 大阪観光大学教授 浦 達雄氏	
5	11月22日（火） 11:30～12:00	全体会	国際会議室	別府ONSENアカデミア宣言	別府市長 長野 恭敏（別府ONSENアカデミア実行委員長）	300人
6	11月22日（火） 13:00～14:00	特別講演	国際会議室	「国東半島に広がる仏教文化について」	【講演者】 宇佐市観光協会 事務局長 小野 辰浩氏 他	300人
7	11月21日（月） 15:00～16:20	トーク＆ ファッション ショー	エントランス ホール	湯にば～さるファッション in べっぶ ～服は着る薬～	【講演者】 鶴丸 礼子氏	
8	11月21日（月） 11月22日（火）	展示		別府溝部学園短期大学主催 お弁当コンテストパネル展		
				大分ロボケアセンター ロボットスーツHAL 展		
				温泉地観光ポスター展		

開会式

1. 名称: 開会式
2. 日時: 2016年11月21日(月) 13:00～13:30
3. 場所: フィルハーモニアホール
4. 来場数: 500名
5. 内容: 古くから湯治場として栄えてきた別府市において、温泉の未来、可能性を探るべくして行われる「別府ONSENアカデミア」、その開会を告げました。
6. 式次第:
 - ①オープニング映像
 - ②主催者挨拶: 長野恭紘(ながの やすひろ)／別府市長(別府ONSENアカデミア実行委員長)
 - ③来賓紹介
 - ④来賓挨拶-1: 関庄一郎(せき そういちろう)／環境省大臣官房秘書課顧問
 - ⑤来賓挨拶-2: 廣瀬祐宏(ひろせ ゆうひろ)／大分県知事(代理) 企画振興部 部長
 - ⑥来賓挨拶-3: 堀本博行(ほりもと ひろゆき)／別府市議会議長
7. 来賓: <上記以外>
 - ・幸重綱二(ゆきしげ こうじ)／公益社団法人 ツーリズム大分会長
 - ・長野景一(ながの けいいち)／大分合同新聞社 代表取締役社長
 - ・岩屋 恒久(いわや つねひさ)／岩屋毅衆議院議員代理 秘書
 - ・増村 幸成(ますむら ゆきなり)／衛藤征士郎衆議院議員代理 衛藤征士郎事務所 所長

8. 開催状況(写真)



(会場入口)同時通訳レシーバー受付



オープニング映像



会場(壇上)



客席全景

開会式

8. 開催状況(写真)



主催者挨拶



客席状況



(壇上)来賓



来賓挨拶

記念講演

1. 名称: 記念講演
2. 日時: 2016年11月21日(月) 13:30～15:00
3. 場所: フィルハーモニアホール
4. 来場数: 500名
5. テーマ: 世界の温泉地の現状と課題
『世界一の露天風呂ブルーラグーン』
『ニュージーランドにおけるツーリズムの誕生地ロトルア』
6. 内容: アイスランド特命全権大使ハネス・ヘイミソン氏による世界最大の露天風呂といわれる「ブルーラグーン」や、アイスランドの温泉について講演いただきました。
また別府市の姉妹都市であるニュージーランドロトルア市より、スティーブ・チャドウィック氏が来別され、「ニュージーランドロトルアのツーリズム」と温泉地の外遊問題とも関係する「マオリ文化と温泉」について講演いただきました。
7. 講演者: ・ハネス・ヘイミソン／アイスランド特命全権大使
地熱エネルギーの利用や地熱発電の先進地で、世界最大の露天風呂と言われる「ブルーラグーン」があるアイスランドの特命全権大使。
・スティーブ・チャドウィック／ニュージーランド ロトルア市長
ロトルア市と別府市は昭和62年(1987年)に姉妹都市提携を結び、現在ではラグビーを通じた交流など多くの面で友好を深めている。温泉や自然を活用したアクティビティにより観光地として愛されている。
＜コーディネーター＞
・斉藤雅樹(さいとう まさき)／東海大学海洋学部海洋文明学科教授



ハネス・ヘイミソン氏



スティーブ・チャドウィック氏



斉藤雅樹氏

8. 開催状況(写真)



ハネス・ヘイミソン氏による講演



ディスカッション

9. 講演録

『世界一の露天風呂 ブルーラグーン』

アイスランド特命全権大使 ハンネス・ヘイミソン氏

アイスランドは北大西洋の中部大西洋稜の中心に位置し、頻繁な地震と火山噴火により地学的に大変活発である。200以上の活火山があり、約5年毎に噴火があり、地層環境は日本の状況と大変似ている。地熱エネルギーの大部分は家屋の暖房と蒸気タービンによる電力発電に使われ、約4%はブルーラグーンや遊泳プールといった入浴及び水泳用プール、その他ビニールハウス、養殖場、融雪等に利用されている。

アイスランドにとって地熱は国民の生活になくてはならない重要なものであり、近年では国際連合大学地熱利用技術研修プログラムが設置されており、1979年よりこれまで60カ国からの合計647人の科学者と技術者がこの専門コースを修了している。その多くは開発国の出身者であり、化石燃料の代用として使われる現地の再生可能エネルギー資源は、益々増えている温暖化ガスの排出による地球温暖化などが人類にとって最も脅威になりつつある現在では大変重要なものとなっている。

キャパシティ・ビルディング、技術移転そして政策過程の強調は持続可能な地熱資源開発の主要課題であり、国連大学地熱プログラムはその目標を支援し続けていく為に継続していく予定である。

『ニュージーランドにおけるツーリズムの誕生地 ロトルア』

ニュージーランド ロトルア市長 スティーブ・チャドウィック氏

1880年代、ロトルアに初めて訪れた旅行者は、主に探検者であった。当時これら観光客のガイドをしていたのは、20数世紀前にカヌーに乗ってハワイキから旅をして流れ着いたポリネシアンの子孫達である地元のマオリ族たちであった。その後、火山の噴火、中央政府の権限委譲、第二次世界大戦など、時代の変化により、ロトルア市の状況も変化した。

2013年、ロトルアレイクス市議会は市の再生に努力すると共に、この町が1800年代に世界的観光地であったという歴史に光を当てることに力を注ぎ、3つの柱(マオリ文化、マウンテンバイキング、天然温泉とウェルネス)を新たな事業創造として、広範囲にわたる観光客を呼び込む為の戦略とした。現在では、デスティネーション開発の世界的リーダーと協働することにより、マーケティングの枠を超えて投資を呼び込み、各観光地が自信をつけることを目標にしている。

私たちの社会では、全てが「タタウ タタウ(皆一緒に)」である。ロトルアレイクス市議会在、ツーリズム事業者と協力して課題を解決し続ければ、更に増えるであろう観光客の需要に、より確実に沿うことができると考えている。

コーディネーター

東海大学海洋学部海洋文明学科 教授、特定非営利活動法人 別府温泉地球博物館 理事 斉藤 雅樹氏

両者のプレゼンテーションを聞き、ヨーロッパ、オセアニア、アジアの異なる地域、文化、歴史を持った場所ではあるが、共通点である温泉と今回の「ONSENアカデミア」を通し、今後も連携できれば良いと考える。また、温泉の「Utilization 有効活用」「Protection 資源保護」「Disaster Response 災害対応」という共通の課題がある。3者の3点における情報交換、意見交換は大きな果実を生むと思われる。

利用と保護にはバランスをとる必要がある。伝統、文化を大切にしつつ多くの意見を参考にし、計画を立て、観光客のためだけでなく地元の方々にも還元されるものにしていかなければならない。

温泉を持ち、温泉を愛するもの同士、将来どの様にこれを使い、守り、伝えていくか方向性が見えた。

全体会

1. 名称: 全体会
2. 日時: 2016年11月21日(月) 15:30～17:30
3. 場所: 国際会議室
4. 来場数: 230名
5. テーマ: 全国の温泉地首長による温泉会議「温泉地におけるインバウンド対応」
6. 内容: ラグビーワールドカップ2019・2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、日本各地で増加が期待される訪日外国人旅行者。彼らが日本で行ってみたい観光地や体験したいことで上位に挙げられる「温泉」。インバウンド対応を考えると、「温泉地」での取組は欠かせないものといえます。日本有数の温泉所在地の首長が、各地の取組状況と外国人旅行者も安心して入浴できる仕組づくりを本音で語り合いました。

7. 講演者: <コメンテーター>

- ・中島尚子(なかじま なおこ)／環境省自然環境整備課温泉地保護利用推進室長
- ・斉藤雅樹(さいとう まさき)／東海大学海洋学部海洋文明学科教授



中島尚子氏



斉藤雅樹氏

<パネリスト>

- ・伊藤勝美(いとう かつみ)／新潟県五泉市長
- ・前川嘉宏(まえがわ よしひろ)／福井県あわら市副市長
- ・山口昇士(やまぐち のぶお)／神奈川県足柄下郡箱根町長
- ・斎藤文夫(さいとう ふみお)／栃木県日光市長
- ・森本要(もりもと かなめ)／静岡県熱海市副市長
- ・佃弘巳(つくだ ひろみ)／静岡県伊東市長、温泉所在都市協議会会長
- ・橋本顯治(はしもと けんじ)／愛媛県八幡浜市副市長
- ・谷口太一郎(たにぐち たいちろう)／佐賀県嬉野市長
- ・首藤奉文(しゅとう ほうぶん)／大分県由布市長
- ・前田終止(まえだしゅうじ)／鹿児島県霧島市長
- ・大山辰夫(おおやま たつお)／鹿児島県三島村長

<コーディネーター>

- ・長野恭紘(ながの やすひろ)／別府市長

8. 会次第:
- ①コーディネーター挨拶
 - ②温泉所在都市協議会会長挨拶
 - ③コメンテーター紹介
 - ④パネリスト紹介
 - ⑤事前アンケート調査結果の報告(白石修三／別府市温泉課長)
 - ⑥討議 温泉地の現状(取組の状況)
抱えている問題
見えてきた課題
外国人が安心して入浴できる仕組づくり
 - ⑦まとめ

10. 議事録

主催者の別府市長から開会の挨拶の後、続いて温泉所在都市協議会会長である佃裕巳伊東市長から祝辞をいただいた。次に、コメンテーターである環境省自然環境局自然環境整備課温泉地保護利用推進室長 中島 尚子氏と東海大学海洋学部海洋文明学科 教授(特定非営利活動法人 別府温泉地球博物館理事) 斉藤 雅樹氏が紹介され、パネリストとしてご参加いただいた11自治体の首長の皆様の挨拶に代え、それぞれの温泉地の取組などが選りすぐりの写真とともに紹介された。

続いて、別府市が温泉地や入浴施設における外国人観光客に対する取組状況などを温泉所在都市協議会加盟都市などに実施した「温泉地におけるインバウンド対応に係るアンケート」の調査結果が、別府市温泉課長から報告された。

このアンケート結果の報告を踏まえた温泉地首長の討議では、まず、温泉地における外国人観光客への取組として、アンケート結果でもその必要性が高いと認識され、すでに取組が進んでいる無料無線LANの整備、地方都市である温泉地として今後重要な課題になると予測される二次交通の重要性や、入浴施設(宿泊施設)における外国人観光客への取組としては、施設案内や泉質等のわかりやすい多言語表記や、文化の違いからくる入浴マナーに関するトラブルを防ぐための周知の必要性について協議された。

これらについては、無線LANのアクセスポイントや認証、交通網の整備を進める上で、広域的連携が必要であること、基礎的整備については県の主導や国の統一した基準・支援など国・県・市町村が役割分担をしながら進めていくことが必要となることが確認された。

次に、2020年に向けて4,000万人超えを見込んでいるインバウンド対策を考える上で、避けて通れないであろう「TATTOO問題」について、各自自治体からは、インバウンドの視点に加え、人権という観点からも意見が交わされた。

その中で、会場にもお越しいただいた都留文科大学の山本 芳美教授の著書「イレズミと日本人」における、日本の「イレズミ」文化や意識が紹介された。

ここまでについて、コメンテーターからは、インバウンドがこれだけ急激に伸びた中で、受け入れ側の環境整備の問題点が明らかになってきた。国・県もさまざまな部署が連携することが必要となる。

また、インバウンド対応の中で、多様性をどう受容していくのか、その典型的な例が「TATTOO」問題であり、他にも、食材の制限や性的マイノリティなど多様な外国人が、安心して一人で旅するために、「おもてなしの国・日本」として、どのような選択肢を与えることができるか、その情報開示をどのようにしていくかが、今後の課題となるであろうとの解説があった。

さらには、インバウンド対応の番外編としてアンケートを行った「温泉マーク」については、アンケートの結果は、57回答の中で、日本工業規格(JIS)を支持した自治体は36団体(66.7%)という結果となったが、今回参加した自治体の中では、ユニバーサルデザインの観点から世界標準規格(ISO)を支持する意見、長い歴史の中で定着してきた従来のマークを使う、新しいマークが定着するのは時間の問題など、多彩な意見が交わされた。

最終的には、ここで、賛成反対を表明するのではなく、今後の動向を見つつ、各自自治体で引き続き話し合っていくこと、その際に必要なことは文化、宗教、その他の違いを理解することであり、そのうえで、共生できる仕組みを作っていくことの重要性を認識した。

コメンテーターからは、お互いの文化を尊重するという視点から、別府在住の外国人留学生とのエピソードが紹介された。日本に来て初めて温泉を体験するイベントの中で、温泉マークについて聞いたところ、最初はISOを支持する学生が大半だったが、JISは300年の歴史を持っていると解説したところ、それならば、JISを尊重するという意見に変わったという。

また、記念講演でもロトルア市長が、「われわれは日本の文化を尊重する」とおっしゃっていたが、日本を訪れる外国人の多くは、日本の文化を尊重し、大事にし、それを後世に継承していくことを望んでいる。

日本の温泉の多様性には目を見張るものがある。泉質や入浴法などその文化も地域によって多様であり、これまでの様式にとらわれない入浴法が他にもあるかもしれない。

恐らく、外国人はその多様性、個性に魅力を感じ、訪れている。

日本人である我々自身が、「多様性」をもっと認識することが求められている。

「TATTOO」への威圧感は、勝手に感じている部分も大きい。日本人への啓発も含め、温泉に関わる者が、情報(課題)を共有することがいかに重要であるか、こういう協議の場を持つことが大事であり、ぜひ今回の試みを別府市がハブとなって、今後も続けていただきたいとの総評があった。

最後に、主催者から、「TATTOO」問題を含むインバウンド対応については、今日この場で結論が出るものではなく、この会で出された意見を様々な場所で様々な形に進化をさせていただければ幸いである。また、温泉所在都市協議会を中心とした様々な温泉地での課題について、今日、このように議論できたことが大きな成果だと感じている。参加していただいた皆様に心から感謝するとのお礼の言葉が述べられ、この会を終了した。

全体会

9. 開催状況(写真)



会場全景



パネリスト



コメンテーター・コーディネーター



温泉所在都市協議会会長挨拶(佃弘巳 伊東市長)



パネリスト



パネリスト



パネリスト



パネリスト

別府ONSENアカデミア全体会 来場者アンケート集計結果

開催日 平成28年11月21日（月） 15時30分～17時30分
開催場所 別府ビーコンプラザ3F国際会議室

来場総数 230 回収総数 148 回収率 64.3%

<アンケート集計結果>

● どちらにお住まいですか？

項目	回答数	割合
市内	85	57.4%
市外	38	25.7%
県外	25	16.9%
計	148	100.0%

※県外回答者の県別内訳数

岩手県4、神奈川県4、東京都3、熊本県3、鹿児島県2、群馬県、
静岡県、京都府、兵庫県、徳島県、愛媛県、福岡県、佐賀県、未記入各1

● 外国人観光客への対応について

政府では、2020年オリンピック・パラリンピックの開催までに、外国人観光客
4000万人の目標を掲げておりますが、温泉地として外国人観光客を迎え入れる
にあたり、特に力を入れなければならない項目はどれだと思いますか？
下記の項目から5つお選びください。（○で囲んでください）

項目	回答数	回答率	回答数順
1 入浴マナーの表示・周知（多言語）	131	80.9%	1
2 医療機関との連携	49	30.2%	7
3 通訳・語学ボランティアの配置	105	64.8%	3
4 泉質や効能をわかりやすく表示	57	35.2%	6
5 外国人向けガイドラインの作成	107	66.0%	2
6 世界標準の案内用図記号を表示	67	41.4%	5
7 湯あみ着や水着の着用を認める	39	24.1%	8
8 外国の文化や宗教についての理解の醸成	89	54.9%	4
9 家族風呂・個室を増やす	28	17.3%	9
10 外国人専用温泉をつくる	7	4.3%	10

※5つ回答するように求めているが、6つ以上ないし4つ以下の回答も含まれる。

※50%以上の回答率の項目を塗りつぶし表示。

● タトゥーについて

タトゥーがある方に対する入浴について、どのようにお考えですか？

（○で囲んでください） ※重複回答があるため、合計が回答者数を超えています。

項目	回答数	大項目 回答率	小項目 回答率
1 一緒に入浴してもよい	108	69.7%	—
2 一緒に入浴したくない	16	10.3%	—
3 入れ墨をかくせば一緒に入浴してもよい	21	13.5%	—
① シール	10	—	47.6%
② 湯浴み着	1	—	4.8%
③ バスタオル	3	—	14.3%
④ その他	3	—	14.3%
⑤ 無記入	4	—	19.0%
4 その他	8	5.2%	—
5 無記入	2	1.3%	—

※1の回答率 市内 71.8%、市外 76.3%、県外 72.0%

●3 入れ墨をかくせば一緒に入浴してもよいのうち、④その他を回答した方の意見

- ・入浴のルールを理解しなければ、入浴の拒否をすべき。市営→グローバルルール、民間→ローカルでよい
- ・タトゥーは外国人にとっておしやれでしている部分があると思います。文化の相違を理解する必要があると思います。
- ・外国人のタトゥーは可。暴力団の入墨は不可。(入墨≠暴力団、暴力団≠入墨)
- ・(公衆衛生の問題でなく)本人の健康の問題がある。タトゥーの面積に応じた入浴温度、入浴時間etcのガイドラインを国が作るべき。

●4 その他を回答した方の意見

- ・程度によっては考える。
- ・部分的なものであれば良いと思います。
- ・タトゥーで温泉に何かあるのなら入浴してほしくはない。特にないのなら別に入浴してもよいと思う。
- ・外国人はタトゥーをしている一般人が多いので差別できない。
- ・外国人、宗教的なものは考慮すべき
- ・受け入れをする施設がタトゥーが○か×かをOPENにすることが必要と思う
(日本人や外国人が選択できるように)
- ・タトゥーがあるかないかではなく、不快なものはダメ
- ・タトゥーの状態で(ファッション性が高い等の理由による)宗教上の関係

●その他、外国人観光客を迎えるにあたり、ご意見がございましたら記入をお願いします。

- ・欧米の成人男女20～25%程度はタトゥーが入っている時代であり、日本人の文化的寛容度をはかる指標にもなるので、前向きに受け入れを考えたほうが良いと思います。
- ・観光についての専門知識をもった人材を育てるべき。できれば一緒に案内できる人。温泉の知識を持っている人を育てる。街歩きなどのイベントや企画を増やす。知己と観光客をつなげる(間に入る)人材を育てる。
- ・外国人・日本人に限らず、温泉の利用目的に応じて、施設を選ぶ訳ですから、各々施設にルールがあって然るべきである。また、観客層も各々で異なるから、行政での統ルールは無用である。
- ・外国人観光客の対応には人材育成が必要。市民の意見を反映させられる場をより多く設けてほしい。心からの「おもてなし」が出来る町は、まず、そこで暮らす人々が幸せ・元気であることが大切であると思います。知己をあげてお客様を心からお迎えするには、まず足もとの”市民の声”を聞いていただける場の創出を願っています。
- ・外国人对応の温泉を区別してはどうか？
多言語表示や周知、対応スタッフの配置など合理的にできるのではないかな？全国的な組織として管理しては？
タトゥーと入れ墨を一面的に捉えるべきではないと思います。温泉は日本文化を強く感じることができる貴重な施設であるので、外国人ニーズに合わせたものに寄りすぎると、本来の魅力が失われると思います。
外国人に対するアンケートを拡充して、ニーズや困った体験などを共有、議論してはどうか？
- ・タトゥー等入浴のマナーについて、入国する機内(空路の場合)で、マナー紹介のビデオを流しては？
(日本文化の紹介)
- ・「温泉」という1くくりの観光資源ではなく、自然・文化と組み合わせていくことが大切に感じる。
- ・マーケティングと受入体制の整備。そして、地域固有の歴史・文化・自然・国土などをさらに磨き上げるというローカルの追求によってグローバルに展開していくことが大切だと思う。
- ・病気・災害(地震等)になったときの「安心・安全」への命を守るための対応、対策の必要性
(ハード、ソフト両面から)
- ・従来(JIS)の温泉マークは外国人観光客には”温泉”と認識されづらいということで”ピクトグラム”の変更について最近議論されていると聞いた。このマーク(JIS)は変更せず下に”hot spring”もしくは”ONSEN”と入れればよいと思う。温泉マークは変えてほしくない。
- ・日本人もかつては欧米に観光した際にマナーが当初よりよかったかは疑問。経験と国の発展によりグローバル化が身につくものである。
マナーマナーというよりも受け入れる体制がまず大切であると思う。

分科会 I

1. 名称: 分科会 I
2. 日時: 2016年11月22日(火) 9:00～11:00
3. 場所: 国際会議室
4. 来場数: 220名
5. 内容: 東日本大震災以降、全国の温泉地は私たちを癒す湯治の場としてだけでなく、再生可能エネルギーである地熱(温泉)エネルギーの豊富な場所としても注目を集めています。日本一の源泉数と湧出量を誇る別府市も他の温泉地と同様に、温泉エネルギーを利用した温泉発電がさかんに計画されています。自然の恵みである温泉と、私たちはこれからどう付き合っていくべきなのか、その利活用と保護について考えます。

6. 次第: **【第一部】 9:00～9:30**
テーマ: 「せーので測ろう! 別府市全域温泉一斉調査」報告会
講師: 由佐悠紀(ゆさ ゆうき) /
別府温泉地球博物館理事長(京都大学名誉教授)



由佐悠紀氏

- 【第二部】 9:30～11:00**
テーマ: 「温泉エネルギーの利活用と保護について考える」
パネリスト: 野田徹郎(のだ てつろう) /
国立研究開発法人産業技術総合研究所名誉リサーチャー
パネリスト: 佐藤好億(さとう よしやす) / 一般社団法人日本温泉協会常務副会長
パネリスト: 阿部博光(あべ ひろみつ) / 別府大学国際経営学部教授
パネリスト: 銭学鵬(チェン シュエペン) / 立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部准教授
パネリスト: 中島尚子(なかじま なおこ) /
環境省自然環境局自然環境整備課温泉地保護利用推進室長
コーディネーター: 北出恭子(きたで きょうこ) / 温泉アナリスト



野田徹郎氏



佐藤好億氏



阿部博光氏



銭学鵬氏



中島尚子氏



北出恭子氏

7. 開催状況 (写真)



「せーので測ろう! 別府市全域温泉一斉調査」報告会



「温泉エネルギーの利活用と保護について考える」

8. 議事概要:

【第一部】「せーので測ろう！別府市全域温泉一斉調査」報告会

別府における利用源泉数の変遷グラフを見ると、全国の温泉地を象徴しているかのように、温泉開発は1960年代の高度経済成長期に激増したことがわかる。昭和24年(1949)の源泉はすべて自噴泉でしたが、動力噴が急速に増え、動力噴が自噴泉を上回った。規制が始まったこともあって、別府では1970年頃から温泉掘削できる場所がほとんど飽和状態となってきた。このグラフでは2000年までしか表示されていないが、現在までほぼこの状態が続いている。

これを源泉分布で見ると、別府中央部を除いた地域はどこでも掘削されている状況となり、源泉総数も約2300箇所となる。温泉採取量の変遷グラフを見ると1959-61年から1973-75年にかけて噴気沸騰泉が急増していることは、山側にある噴気沸騰泉、つまり高温部を開発したという特徴がある。こうしたことを総合すると、伽藍岳の地下にある熱水が断層に沿って流れ出しているということが分かる。これはどういう熱水かというと、陽イオンではナトリウム、陰イオンでは塩素で、つまりNaCl型の熱水ということが分かった。

平成28年11月13日に実施した別府全域の温泉一斉調査の概要について説明。対象は一般温泉で、事前アンケートを配布し、市内36箇所の源泉を調査員が訪問調査し、14箇所の源泉を源泉所有者自身が調査した。調査内容は温度測定と温泉水の採水による成分分析であり、49箇所の源泉所有者がこの調査に協力し、調査源泉総数は57箇所となった。

調査の中間報告を見ると、1990年頃の温度分布と今回の温度分布を比較すると大きくは変わっていないことが分かった。ただし、一例として天満温泉を見ると以前は沸騰泉だったが、現在は高温であるものの沸騰しておらず、温度が低下したことを示唆する結果も出ている。

1990年の調査場所と同じところは8箇所しかなかったものの、全体的に温度低下が続いていると考えられる。このことは、増改掘されなかった一般温泉の平均泉温の推移を参照し、1970年頃から10年ごとに平均泉温が徐々に下がっているデータからも、伺い知ることができる。

今後は、化学成分の分析結果を加味して調査結果を整理し、別府温泉地球博物館のウェブサイトで公開する予定にしている。また、こうした調査が定期的に継続できればよいと考えている。

【第二部】「温泉エネルギーの利活用と保護について考える」

まず「ONSENアカデミア」ということで、全体タイトルに温泉を学術的に考えていこうという意思が含まれているのが良い。温泉の利用の方ばかりに目が向かいがちになるが、温泉を適正利用するためには学術的に温泉を考えなければならない。つまり、温泉(資源)の適正利用と保護をセットにして考えることが大事で、温泉資源を保護しながら利用することが本来の適正利用である。今回の学術的な温泉一斉調査は、そのことを温泉所有者にも理解してもらったことに大きな意義があった。また、今回の温泉一斉調査は、市民参加型としてまず世界でもあまり例がない取組ではないかと考えられ、温泉資源の調査が過去から詳細に記録されている全国でも先進的な地域(別府)で行われたということや、市民や源泉所有者からの温泉資源の大切さを実感してもらうツールになった点も評価される。

全国的に温泉の減衰が見られるというデータもあるが、水は循環しているという水循環基本法の考え方からすると温泉資源も循環したものであり、それをどう管理していくかという問題に至る。これはモニタリングの考え方につながっていくが、単にモニタリングするだけでは駄目で、結果を解析して、別府地域ではどれだけ採取すれば持続していけるのかを知ることが大事である。また、継続的にかつ広域的に行うモニタリングを地元サイドでしっかりやっていけるように、行政側できちんと予算付けをしていくことも大事なのではないか。モニタリングを継続してやることで、そこから見えて(分かって)くることに地元がきちんと対応していけるようなシステムを作っていくことも重要となってくる。

こうしたモニタリング情報を公開するのか、又は共有するのかということをまず整理することが重要であり、そうした資源管理については情報共有ということがキーワードになってくる。今後は、有識者や温泉関係者を含めた中で客観性を持った情報開示のあり方早急に議論していくべきである。地域社会と温泉発電が共生するためには科学的な情報開示が必須であり、又、そのルールづくりも必要と考える。

今後議論すべき課題は、滞っていると考えられるソフト面、つまり合意形成の部分であると考ええる。技術革新によってハード面は進んでいるが、地域社会と発電事業との溝をしっかり埋めていかないと地熱開発そのものが進んでいかない。

また、社会的な合意形成の重要性を認識して、地域住民、地熱学者、関係者や行政などが一同に会し、徐々に議論を積み重ねていくことが大事である。その議論の中で、地熱開発も地域活性化策として捉え、別府市を再エネのモデル地区として共生から共栄への展開をしていく考え方も必要ではないかと考える。

別府にある地熱資源というのは、別府に住む市民の方たちが等しく享受するものであり、市民全体でそれをどうやっていきたいかという総意に基づいてやっていくしかない。と同時に、温泉資源の保護についてもきちんと考えていくことが別府にとって良い方向づけとなるだろう。

9. 参考資料

「せーので測ろう！ 別府市全域温泉一斉調査」報告

由佐悠紀（別府温泉地球博物館）

山田 誠（総合地球環境学研究所）

1. 調査の主旨

1990 年代の初頭以降、別府全域を対象とした温泉の科学的調査は行われていない。

今回の調査では、その後の温泉の温度および化学成分の変化を調べる。

2. 調査共催団体

別府市

別府ONSEN アカデミア実行委員会

NPO法人 別府温泉地球博物館

別府市旅館ホテル組合連合会

京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所

3. 事前アンケート

別府市内の源泉所有者に、源泉の現状や一斉調査への協力の有無について、事前に郵送によるアンケートを実施。

アンケート送付数：335 件

回答数：91 件

回答率：27%

〔結果〕

調査員の訪問調査の受け入れ可：27 件

源泉所有者自身による調査実施：14 件

市有源泉：8 件

合計 49 の源泉所有者が協力を承諾

総調査源泉数：57 か所（所有源泉数が複数の方があるため）

4. 調査の概要

実施日：2016 年 11 月 13 日（日）

調査対象温泉の種類：一般温泉（沸騰しない温泉）

調査項目：温泉水の温度測定、温泉水の採水、写真撮影

現地調査実施件数：49 件

（内訳）調査員の訪問調査：35 件

源泉所有者自身による調査：14 件

9. 参考資料

参加調査員数：43 名

5. 温度測定の結果（暫定）：過去の温度との比較

亀川地区の 2 源泉および別府地区の 6 源泉について、1990 年頃のデータと比較した結果は、次のようである。ただし、堀替えなどが行われているので（ほとんどが増掘：井戸深を深くする）、同じ源泉を測定できているとは限らないことに注意されたい。

亀川地区：ほとんど不変のもの・・・1

明らかに低下したもの・・・1

別府地区：ほとんど不変のもの・・・2

わずかに低下したもの・・・1

明らかに低下したもの・・・3

なお、別府地区の「ほとんど不変のもの」の 1 つは、温度が低下したため、井戸深が 100m から 200m へと増掘されている。

6. その他

1990 年頃低地部（照波園・天満町）に存在した沸騰泉のほとんどが沸騰を停止していた。

7. まとめ

1970 年頃、1980 年頃および 1990 年頃の調査結果では、別府市全域の低地部に分布する一般温泉では、温度の低下の傾向が認められていた。今回の調査数は少ないが、低地部の沸騰泉の沸騰停止も合わせて、温度低下の傾向は続いていると思われる。

今後実施したい事項は下記のとおりである。

- （1）今回採水した温泉水の化学成分の分析結果を待つ。
- （2）過去のデータをチェックする。
- （3）結果を公開する（報告書及びウェブサイト）。
- （4）同様の調査を継続する。

以上

分科会Ⅱ

1. 名称: 分科会Ⅱ
2. 日時: 2016年11月22日(火) 9:00～11:00
3. 場所: 中会議室
4. 来場数: 140名
5. 内容: 温泉治療の歴史を紡いできた九州大学病院別府病院から温泉医学ご専門の前田豊樹先生、女性アスリートの国際競技力向上を目的とする文科省・スポーツ庁のプロジェクトリーダーとして調査研究を行っている西別府病院スポーツ医学センター長の松田貴雄先生のご講演により、医療や健康増進に活用するONSENを展望。健康運動指導士の木元雪絵さんによる「べっぴんゆうゆう体操」の実演指導も行いました。
6. 次第: 「健康寿命延伸と運動効果を高めるONSENの展望～温泉と医療、健康、スポーツの現状～」
【1】温泉で健康づくり(9:00～9:30)
講 師: 木元 雪絵(きもと ゆきえ)／合同会社元気づくり支援研究会健康運動指導士

【2】温泉の医用効果について(9:30～10:15)
講 師: 前田 豊樹(まえだ とよき)／九州大学病院別府病院准教授 医師

【3】スポーツヘルス・メディカルツーリズム(10:15～11:00)
講 師: 松田 貴雄(まつだ たかお)／西別府病院スポーツ医学センター長



木元 雪絵氏



前田 豊樹氏



松田 貴雄氏

7. 開催状況 (写真)



「べっぴん ゆうゆう体操」を全員で実践



温泉の医用効果について

8. 議事概要:

【1】温泉で健康づくり

介護予防や生活習慣病予防、人材育成事業及び別府市の特性を活かした市営温泉テルマスの屋外健康浴施設を活用した「湯中運動教室」「湯中体操倶楽部」について、また平成24年度から実施している事業の中での体力測定（開眼片足立ち、長座体前屈の比較）結果や身体的健康度、精神的健康度、役割・社会的健康度についての意識比較が紹介され、体調生活面では「身体が軽くなった」「歩行が楽になった」「食事がおいしくなった」、情緒面では「出会いがあり楽しみが増えた」「人との交流で気持ちが明るくなった」との内容であった。今後の展望として、地区温泉や自宅の風呂を利用して手軽に取り組める湯中運動の定着を図り、精神的ストレスの軽減や運動の習慣化、栄養の内容も取り入れながら生活習慣病予防対策を行い別府市民の健康寿命延伸を支援していきたいというものであった。講演後半は温泉入浴に関わる動作を取り入れ「別府音頭」にあわせて行う体操、べっぴんよう体操を参加者全員で行った。いつまでも温泉に入り健康であるというメッセージがこめられている。

【2】温泉の医用効果について

温泉は健康に良いのは間違いないところであり、また医用効果とは医学、病気を相手にするもの。別府の源泉の分布図や8^(※1)種類の泉質の温泉が入浴に供されていることなどを「日本温泉医学の祖エルヴィン・フォン・ベルツ」や環境省作成資料を引用し、その情報を織り交ぜながら温泉を取り入れることで病気の苦痛を和らげる補助治療として、いろいろな病気に応用が利き幅の広い治療に活かせると考えられていることが紹介された。病気になって治すことと健康でい続けることは全然違うもの。その疾病の予防効果については平成24年度から平成26年度にかけて、65歳以上の別府市民20,000人を対象に「温泉と健康に関するアンケート」を実施し解析したところ、環境省のものとおおよそ同じパターンが見られ、疾病予防効果の可能性のある温泉利用パターンの顕著なものとして、女性の高血圧症、喘息は毎日入浴するといった報告を一昨年行った。さらに細かく解析してその中間報告の検証を行っており、習慣的に温泉を利用してない方との差、温泉入浴について避けるべきこと、気をつけることを見定めていく必要があるということ、また「疾病発症に関連する温泉の利用パターン」として疾患別、男女別での好ましい入浴パターンと、好ましくない入浴パターンが紹介された。

具体的な治療について、九州大学病院別府病院では全国で200万人近くいる線維筋痛症の治療として鉱泥浴を実施し、そのデータをもとに改善する効果が認められることが説明された。治療という面からは、抗炎症、貧血改善、代謝促進、栄養改善、抗うつ、安眠鎮痛、創傷治癒、心機能改善それに加えて予防効果として抗がん効果、再発予防、高脂血症を防げるのではないかと、予防効果も加味して温泉の医用効果の応用が可能でないか、そしてそのような情報は温泉地の別府から大いに発信していくべきもので、別府からの発表は重みのあるものだと思うのでこれからも正確に解析し、こういう情報をますます提供していきたいと考えているとの講演でした。

(※1)平成26年7月1日付け環境省自然観光局長通知により泉質区分が11種類から10種類となり、別府市内では平成28年11月現在7種類の泉質が確認されています。

【3】スポーツヘルス・メディアカルツーリズム

スポーツの世界に温泉は十分活用しきれてないが、可能性として聞いていたければと言うことで、メディカルツーリズムを理解してもらう目的で常同ドクターの仕事の紹介があった。常同ドクターは整形外科的な仕事が想像されると思うが、それとともにメディカルマネジメント全般で環境整備やコンディショニングなど多くの役割を担ってきた。そこでなでしこジャパン元代表の澤穂稀さんや選手らとのコミュニケーションを深め相談を受けられる関係を築いた。川澄選手など現役選手から、「メディカルチェック、スポーツをするうえでからだのことでいろいろ気になるところがあるけどきちんとまとめて検査できるところがない」、の言葉からリフレッシュも含めたメディカルチェックができる温泉を利用したツーリズムに考えが及ぶに至った。ワンストップでオフシーズンにできることが必要と感じている。また、西別府病院では、国内で2箇所ぐらいしかないオーバートレーニング症候群の検査が出来る施設。オーバートレーニング状態とは、副交感神経の機能失調によりリラックスできず身体のコントロールがうまく出来なくなる状態。ぬる湯は長く入浴することで副交感神経機能を上げていく効果がある。炎症を抑えるために冷やすことは必要だが、そのあとに留まってしまった乳酸などをもういちど肝臓に戻してあげることが重要。アスリートの貧血と筋肉の関係について図解で説明し、筋肉は身体に影響するいろいろなものを作っておりその機能をあげるために温泉が利用できることも多いのではないかと、足湯の筋肉に及ぼす良い影響もわかってきている。運動でも温泉でもとにかく1日1回は交感神経を刺激するものなのではないか。スポーツ医学も以前にくらべて急速に変化している、そしてスポーツ医学は病気でない人が対象で、治療のゴールが違う。早く復帰したいと思っている人を診るのがスポーツ医学なので、それに是非別府温泉を利用したい。「プレキャンプは別府で！」を広めていきたいと思っているとの講演であった。

分科会Ⅲ

1. 名称: 分科会Ⅲ
2. 日時: 2016年11月22日(火) 9:00～11:00
3. 場所: 小会議室31
4. 来場数: 120名
5. 内容: 「NPO法人別府八湯温泉道名人会」が別府市自治振興課・温泉課と協働し行った、別府市の温泉文化の根幹をなす「共同浴場」に関するアンケート調査。その調査結果を踏まえ、大阪観光大学浦達雄教授をコーディネーターに迎え、これからの別府の「共同浴場」のあり方や、「共同浴場」の護・活用についてなど様々な視点から会議を行いました。

6. 次第: 【第一部】9:00～9:30
テーマ:「共同浴場に関するアンケート調査の結果について」
講師:佐藤 正敏(さとう まさとし)／別府八湯温泉道名人会理事長



佐藤 正敏氏

【第二部】9:30～11:00

テーマ:「別府の共同浴場の現状と今後の課題」

パネリスト:佐藤 正敏(さとう まさとし)／別府八湯温泉道名人会理事長

パネリスト:平野 芳弘(ひらの よしひろ)／梅園温泉再建委員会委員長

パネリスト:渡部 隆一(わたべ りゅういち)／弓松温泉管理人

パネリスト:阿部 保(あべ たもつ)／末広温泉管理人

パネリスト:南 達也(みなみ たつや)／湯都ピア浜脇館長

司 会:松崎 沙織(まつざき しおり)

コーディネーター:浦 達雄(うら たつお)／大阪観光大学教授



平野 芳弘氏



渡部 隆一氏



阿部 保氏



南 達也氏



松崎 沙織氏



浦 達雄氏

7. 開催状況 (写真)



「共同浴場に関するアンケート調査の結果について」



「別府の共同浴場の現状と今後の課題」

8. 議事概要:

【第一部】「共同浴場に関するアンケート調査の結果について」

別府八湯温泉道名人会理事長の佐藤正敏氏より、別府市協働のまちづくり事業として、別府市自治振興課・温泉課と協働して実施した「共同浴場に関するアンケート調査」の調査結果を元に中間報告を行った。

まず、アンケートの概要として、対象者は「A. 共同浴場管理者」、「B. 地域住民」、「C. 共同浴場利用者」、「D. 外国人・留学生」とし、実施期間は平成28年6月から10月。「A. 共同浴場管理者」は、市有区営温泉、区有区営温泉82箇所のうち74箇所からアンケートを回収、「B. 地域住民」は任意の8エリアのうちから184名分回収、「C. 共同浴場利用者」については任意に選出した15箇所の共同浴場の利用者から170名分を回収、「D. 外国人・留学生」については立命館アジア太平洋大学の学生49名、別府大学の学生31名の計80名分を回収した。

「A. 共同浴場管理者」からのアンケート結果から、利用者が減少傾向にあること、利用者を増やしたいと考えている施設が多いこと、組合員の入浴料は1ヶ月800円から1,000円というところが一番多く、外部からの一般入浴者は1回100円というところが多い。入浴料は適正と考える管理者が一番多く、料金の値上げには消極的な管理者が多い結果となった。

その他にも、市営温泉無料入浴券による組合員の減少や、外国人・留学生の共同浴場利用の受け入れ等に関する問題、共同浴場の番台や清掃などの管理運営に関する問題、別府八湯温泉道についてのアンケート結果の報告があり、各共同浴場の実状について発表が行われた。また、「B. 地域住民」からの回答結果について、共同浴場の利用状況や別府八湯温泉道に関する部分について報告がなされた。

【第二部】「別府の共同浴場の現状と今後の課題」

～別府八湯温泉道が地域にもたらす意味～

コーディネーターに大阪観光大学の浦達雄教授を迎え、別府八湯温泉道や共同浴場の関係者をパネリストに、別府の温泉文化の中心である共同浴場のこれからのあり方、保護、活用についてパネルディスカッションが行われた。

まず、共同浴場の現状について、湯都ピア浜脇及び浜脇温泉の南達也館長より、どちらも利用者的大変多い市営温泉であるが、地域に支えられ、大きなトラブルはなく、外国人利用者のマナー問題についてもジェスチャーなどで解決しているという話がなされた。

末広温泉管理人阿部保氏からは、10年前あまり手入れがなされていなかった末広温泉を改善していった話や番台などの管理運営に関する問題点、より愛される温泉を目指すための様々な取り組みの報告とともに、別府の温泉の発展のための料金体制の見直しや市の補助金に関する要望もなされた。

弓松温泉管理人の渡部隆一氏からは、平成19年に管理を始めてからの出来事や、今年9月の別府八湯温泉道加入を利用者増につなげたいと語った。

梅園温泉再建委員長の平野芳弘氏からは、梅園温泉の歴史と、震災によって取り壊されたことについての報告とともに、共同温泉保護のモデルとしての梅園温泉再建にあたり、色々なところから検討をしている旨説明がなされ、別府八湯温泉道の佐藤正敏理事長からは温泉道の取り組みや共同浴場の保護活用について報告があった。

次に、浦氏からの各施設の課題や解決策に関する質問について、南館長は、高齢者の健康増進や見守りといった役割を担いたいこと、阿部氏は、施設改善により末広温泉の知名度が上がってうれしいことや、利用者に気持ちよく入浴していただきたいこと、渡部氏は、別府八湯温泉道の加入を機により多くの方に利用していただき、休憩スペースを作るなど努力していきたいと語った。平野氏からは共同浴場の文化財指定を目指して何かできないか提案していきたいことや、今後も連絡協議会のような、市、観光協会、地元、共同温泉経営者が一堂に集まり、意見交換ができる場を定期的に開催したいと話され、佐藤氏からは、共同浴場の維持管理のため、外部利用者の料金値上げの必要性を訴えたほか、平野氏同様に連携協議会の立ち上げ、温泉文化遺産や日本文化遺産への登録を目指すといった抱負が語られた。

来場者からの質疑応答では、提言のあった連絡協議会が母体となり、共同浴場を守るためボランティア等の取りまとめや、経営相談にのれる組織があると良いのではないかととの質問について、平野氏は協議会を早々に立ち上げ、全体で運用できる補助金の創設や、福祉などの問題の解決に向けて考えたいと述べた。また、別府の温泉の強みについての質問について、南館長は九州各県を回り、居心地のよいところでたどり着いたのが別府市で、行く先々で気を使っていたなど、よそ者扱いされなかったことに感激したと答えた。そのほか独自のタオルを販売するなどして経営を安定させるべきといった意見も来場者からなされた。

最後に、コーディネーターの浦氏より、「別府八湯温泉道が始まってから7千人が名人になっています。当初は名人になるには2万円の入浴料が必要でしたが、現在は1万円代で大丈夫。この運動はまちづくりだと思う。それが別府の活性化になります。小さなことから積み重ね。まず、温泉に行きましょう。100円、200円使いましょう。そうしたことの継続が大切です。」との言葉により閉会された。

9. スライド

共同浴場に関するアンケート 調査の結果について

発表者：NPO法人 別府八湯温泉道名人会
理事長 佐藤 正敏



1

アンケート概要

別府市協働のまちづくり事業として、共同浴場の現状調査と利用促進及び別府八湯温泉道の効果測定と加入促進を目的に実施。

※対象者
A 共同浴場管理者
B 地域住民
C 共同浴場利用者
D 外国人・留学生

※実施期間
2016年6月～10月

2

アンケート対象者

A 共同浴場管理者
市有区営温泉、区有区営温泉82箇所→アンケート回収74箇所

B 地域住民
任意選出した8自治体に住む184名
(上野口・鉄輪東・春木・照波園・弓ヶ浜・浜田町・扇山・南立石生目)

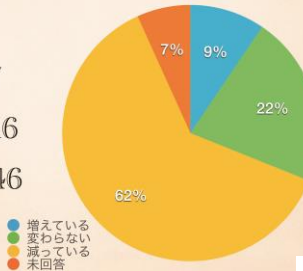
C 共同浴場利用者
任意選出した15箇所の共同浴場を利用している170名
(上野口温泉・亀陽泉・弓ヶ浜温泉・四の湯温泉・柴石温泉・汐の湯・春木共同温泉・照湯温泉・生目温泉・扇山温泉・地獄原温泉・湯の川温泉・平田温泉・堀田温泉)

D 外国人・留学生
APU学生49名、別府大学生31名、合計80名

3

A 共同浴場管理者 利用者数について 1

利用者数
増えている 7
変わらない 16
減っている 46
未回答 5



4

A 共同浴場管理者 入浴料について 1

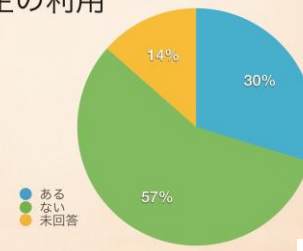
一カ月の入浴料金はいくらかですか？



5

A 共同浴場管理者 外国人・留学生の利用について 1

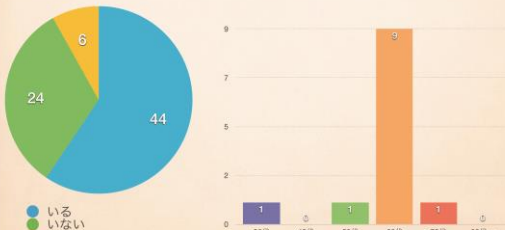
外国人・留学生の利用
ある 22
ない 42
未回答 10



6

A 共同浴場管理者 管理運営について 2

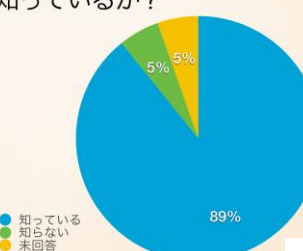
番台さんの有無と年代



7

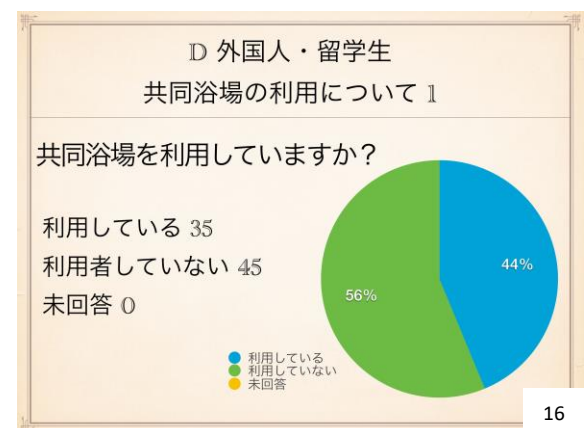
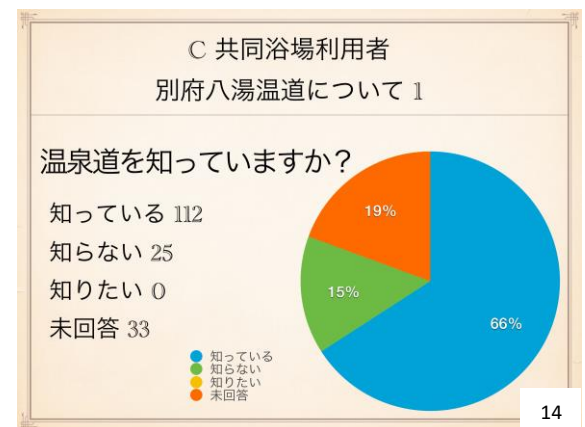
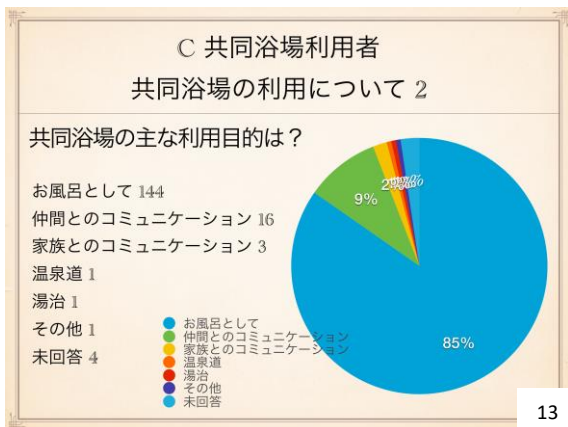
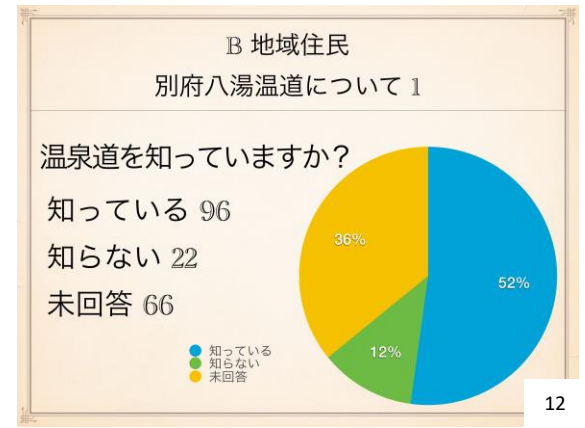
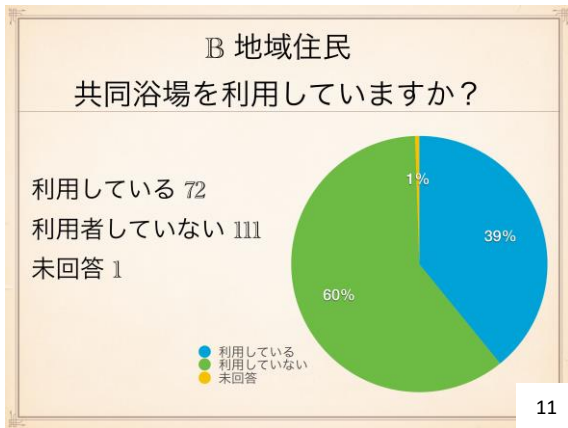
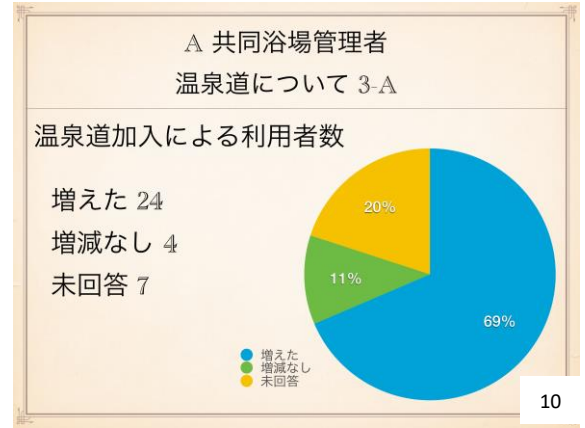
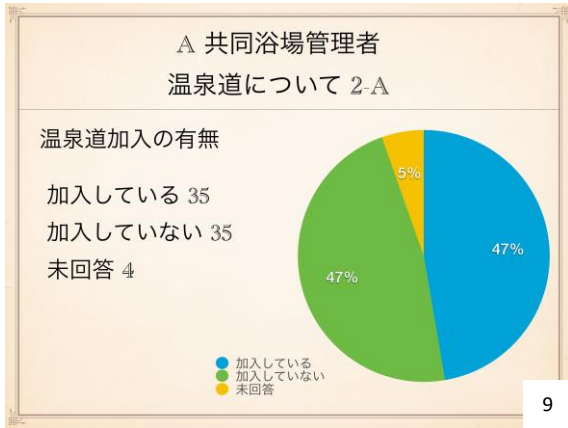
A 共同浴場管理者 温泉道について 1

別府八湯温泉道を知っているか？
知っている 66
知らない 4
未回答 4



8

9. スライド



全体会

1. 名称: 全体会
2. 日時: 2016年11月22日(火) 11:30～12:00
3. 場所: 国際会議室
4. 来場数: 400名
5. テーマ: 別府ONSENアカデミア宣言
6. 内容: 「別府ONSENアカデミア」における「全体会」や「分科会」などで行われた講演や会議の内容を総括し、別府ONSENアカデミア実行委員長である長野恭紘別府市長より、別府市から世界に向けて発信する『別府ONSENアカデミア宣言』を行なった。
7. 講演者: 長野恭紘(ながのやすひろ)／別府市長(別府ONSENアカデミア実行委員長)
8. 開催状況(写真)



「別府ONSENアカデミア」総括



別府ONSENアカデミア宣言

別府ONSENアカデミア宣言

私たちは、
地球からの恵みである温泉に感謝し、
創意と工夫をこらして、人々の暮らしに役立てていけるよう努力する。

私たちは、
温泉を慈しみ、その保護に責任を持ち、絶やすことなく後世に継承する。

私たちは、
人々に癒しと安らぎをもたらす温泉の魅力と価値を日本全国、
そして世界に発信することに一丸となって取り組んでいく。

以上、ここに宣言する。

平成28年11月22日
別府ONSENアカデミア

9. 実行委員長総括

温泉から恩恵を受けている私たちは、国際観光温泉文化都市である大分県別府市で開催された「別府ONSENアカデミア」に集い、その地において温泉が有する魅力、その限りない可能性を確認し、この貴重な資源を活かして地域を活性化すること及び温泉を後世に確実に繋ぐ責任を共有した。具体的には、

<記念講演>

世界の温泉地の現状と課題

『世界一の露天風呂ブルーラグーン』アイスランド特命全権大使 ハンネス・ヘイミソン氏

『ロトルア・マオリ文化と温泉』ニュージーランド ロトルア市長 スティーブ・チャドウィック氏

北欧を代表するアイスランドと、ニュージーランドを代表する温泉地ロトルアの温泉事情を知り、ONSENは海外においても人々を魅了し、生活に必要な貴重な資源でもあることが再認識された。両国とも独自の温泉文化を創造しており、見習うべきことが多かった。

<全体会>

全国の温泉地首長による温泉会議「温泉地におけるインバウンド対応」

2020年までに訪日外国人観光客数を4000万人とする政府目標を達成するために、外国人観光客の利便性や効率性を考慮すると、Wi-Fi環境や二次交通等の整備については、広域連携で行うことが望ましく、外国人観光客誘客のためのハード整備に関しては、国の統一した基準や支援が必要との意見が出された。また、TATOOを一概に禁止するのではなく、多様性を認め合うためにも、日本と外国の文化や歴史などを相互に理解するという合理的配慮を行うための努力を、時間をかけて行う必要性などが協議された。

傍聴者 約230人

<分科会Ⅰ>

第一部「せーので測ろう！別府市全域温泉一斉調査」報告会

第二部「温泉エネルギーの利活用と保護について考える」

東日本大震災以降、自然エネルギーとしても注目されている温泉発電について、保護と活用及び地域住民との共生という観点から専門家による検討がなされ、解決するためにはモニタリング調査などによる科学的知見の蓄積と地域の合意形成が不可欠であるとともに、様々な角度から社会的議論を深める温泉資源の重要性を認識した。

傍聴者 約220人

<分科会Ⅱ>

「健康寿命延伸と運動効果を高めるONSENの展望 ～温泉と医療、健康、スポーツの現状～」

健康志向が高まる中、温泉を医療、健康、スポーツに活用するための研究を続けている専門医師より、アンケート結果等に基づく温泉活用の提言を受け、まだ解明できていない温泉利用の可能性を、エビデンスを基本に追求していくことは、温泉地そのものの価値の向上に繋がることを確認した。

傍聴者 120人程度

<分科会Ⅲ>

「共同浴場に関するアンケート調査の結果について」

「別府の共同浴場の現状と今後の課題～別府八湯温泉道が地域にもたらす意味～」

人口の減少、利用者の減少に伴い、共同浴場の管理・運営は、非常に厳しい現状ではあるが、全国に温泉の魅力を発信してくれる別府八湯温泉道名人会の存在は心強い。今後も名人会と地域が手を取り合って、連絡協議会の設立など強い絆で結ばれ、更に、共同浴場を活性化させていくことを確認した。

傍聴者 120人程度

平成28年11月22日 別府ONSENアカデミア実行委員長 長野 恭紘

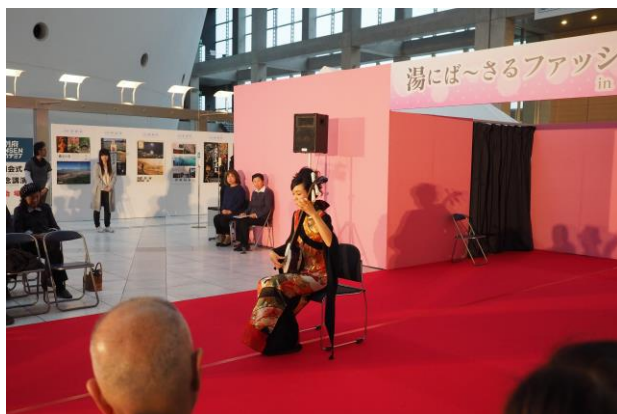
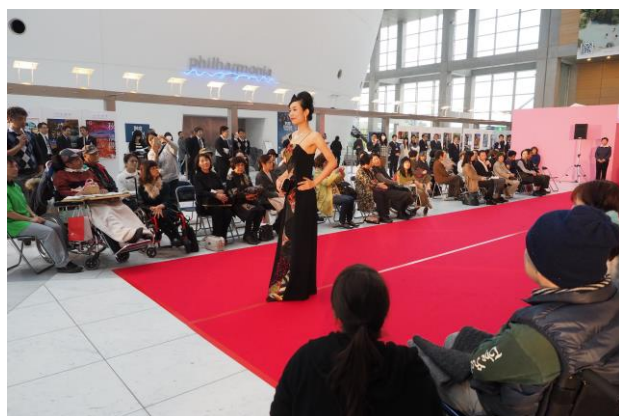
特別講演

1. 名称: 特別講演
2. 日時: 2016年11月22日(火) 13:00～14:00
3. 場所: 国際会議室
4. 来場数: 300名
5. テーマ: 国東半島に広がる仏教文化について
6. 内容: 国東半島に古来より今なお根付く「六郷満山文化」。「六郷」とは国東半島の来縄、田染、安岐、武蔵、国東、伊美を指し、「満山」とは地域が仏教寺院に満ちている様を言います。平成30年に開山1300年を迎える六郷満山。国東半島に広がる、日本の中でも極めて特殊な山岳仏教文化について講演を行いました。
7. 講演者: 小野 辰浩(おの たつひろ)／宇佐市観光協会事務局長、豊の国千年ロマン観光圏観光地域づくりマネージャー
河野 英信(かわの えいしん)／宇佐国東半島をめぐる会会長
摩尼 尊彦(まに そんげん)／興導寺住職
8. 開催状況(写真)



エントランスホールでの催し

1. 名称: 湯にば～さるファッションinべっぷ～服は着る薬～
2. 日時: 2016年11月21日(月) 15:00～16:20
3. 場所: エントランスホール(中央)
4. 内容: 障がいのある方や高齢者が着用しやすい被服の作成と「おしゃれ」の重要性を提唱されている鶴丸礼子さんと障がい当事者によるトーク&ファッションショー。
5. 開催状況(写真)



エントランスホールでの催し

1. 名称: 別府溝部学園短期大学主催 お弁当コンテストパネル展
2. 日時: 2016年11月21日(月) 12:00～18:00
3. 場所: エントランスホール(コンベンションホール側)
4. 内容: 大分県の特産物の地産地消と「おんせん県おおいた」の活性化、さらには、次世代を担う若者たちの食育に繋げることを目的として、毎年開催している「お弁当コンテスト」。別府ONSENアカデミア開催を記念してパネル展を行います。
5. 開催状況(写真)

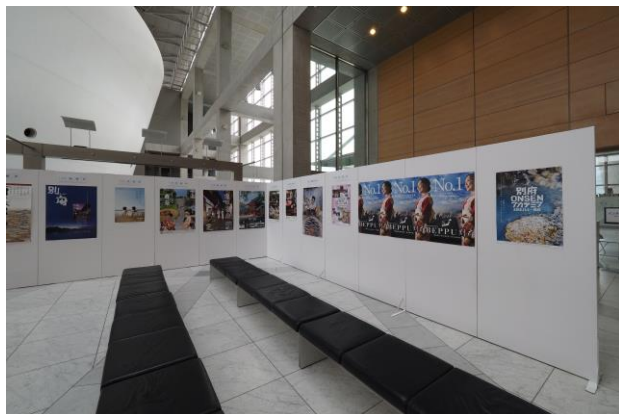


1. 名称: 大分ロボケアセンター ロボットスーツHAL®展
2. 日時: 2016年11月21日(月) 12:00～18:00(展示)17:40～18:00(実演)
3. 場所: エントランスホール(富士見通り側)
4. 内容: 大分ロボケアセンターでは、ロボットスーツHAL®を活用した歩行トレーニング(HAL FIT®)と最先端機器を活用した健康増進フィットネスを行っています。国内・海外から長期でHAL FIT®を実施できるよ
を融合し う「長期滞在型プラン」をご用意し、大分県の観光資源と最先端技術であるロボットスーツHAL®
たパッケージを展開しています。
5. 開催状況(写真)



エントランスホールでの催し

1. 名称: 温泉地 観光ポスター展
2. 日時: 2016年11月21日(月) 12:00~18:00
3. 場所: エントランスホール、3階エレベーターホール前
4. 内容: 別府ONSENアカデミア開催を記念して、全国約40カ所の温泉地観光地より送っていただきました観光PRポスターを展示します。地域それぞれの持ち味を活かした個性的なポスターをご鑑賞ください。
5. 開催状況(写真)



歓迎レセプション

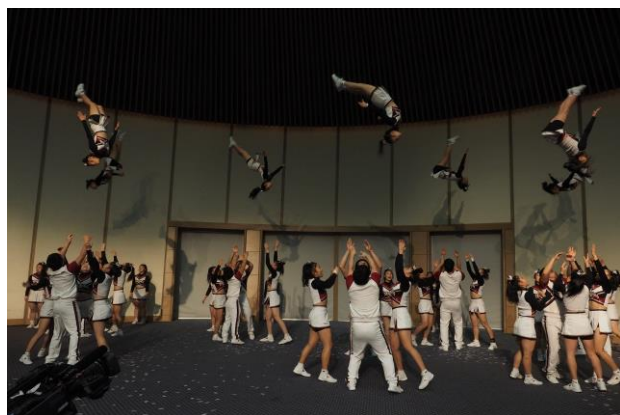
1. 名称: 歓迎レセプション
2. 日時: 2016年11月21日(月) 18:30～20:00
3. 場所: レセプションホール
4. 来場数: 200名
5. 次第:

18:00	開場
18:30	オープニング(日本文理大学チアリーディング部”BRAVES)
18:40	開式
18:41	主催者挨拶(長野恭紘／別府市長)
18:44	来賓挨拶(関莊一郎／環境省前事務次官現顧問)
18:47	来賓挨拶(太田豊彦／大分県知事(代理) 大分県副知事)
18:50	乾杯のご発声(佃 弘巳／静岡県伊東市長)
18:53	歓談
19:05	別府市新PV紹介(清川進也／映像プロデューサー清川氏による作品説明)
19:11	歓談
19:23	アトラクション(梅川 壱ノ介／長唄「松の緑」)
19:30	歓談
19:33	温泉会議参加自治体紹介 7自治体首長
19:41	歓談
19:57	閉会の挨拶 堀本博行(別府市議会議長)
20:00	閉式

6. 開催状況(写真)



レセプション会場



オープニング



来賓挨拶



来賓挨拶

歓迎レセプション

6. 開催状況(写真)



来賓挨拶



別府市新PV紹介



アトラクション



温泉会議参加自治体紹介



歓談風景



歓談風景



歓談風景



歓談風景

1. 配布資料

別府ONSENアカデミア

エクスカーシ

『湯けむりが地域の未来を創る』



(目的)

日本一の湧出量を誇る別府市、その中でも鉄輪は最大の温泉地です。この地域の最大の特徴は豊富な『湯けむり』で、昔ながらの『湯けむり』習俗と最新の多段階利用施設が共存する希有な地域となっています。

本エクスカーションでは、先進的な利用を図る施設での取り組みを見学するとともに、ジオ体験コースの一部を散策していくことで、『湯けむり』を中心とした今の鉄輪の姿を感じてもらうことを目的とします。

別府ONSENアカデミア実行委員会



温泉発電等



● 蒸気と熱水の両方が同時に使える『湯けむり発電』



● 低濃度の媒体を利用して発電する『バイナリー発電』

『湯けむり発電システム』のメリット

1. 現在ある温泉井戸を使って発電することができる→新発電機が不要
2. シンプルな構造で、汽水分離等がいらないので、設置・メンテナンス費が抑えられる
3. 熱水のエネルギーも使えるので、蒸気だけの場合はより発電量を上げることができる
4. 使用済みの蒸気から抽出される熱水は100℃ほどを保っているため、温泉水、他の用途に二次使用することができる

もうひとつの温泉熱発電システム

『バイナリー発電』

バイナリー発電は、水より沸点の低い代替フロンなどの媒体を加熱、蒸気としてその蒸気でタービン回す発電方式です。加熱源系統と媒体系統の2つの熱サイクルを回すことから、『バイナリー』(binary)と称されています。また、すでに述べている湯熱を利用できるのだからに勝る必要がなく、比較的低い温度の蒸気・熱水でも発電できるメリットがあります。別府などの比較的低温の蒸気がある地域で既に導入が広がっています。

展望

『湯けむり発電』と『バイナリー発電』は、新しい地熱発電・温泉熱発電の方法として確立されようとしています。温泉とも共存可能な小型の地熱発電は、地域の人々が事業主体となることにより地域に新たな収入源をもたらします。電気安定供給とともに地域を活性化させる役割も期待されているところであり、更なる技術革新を進める必要があります。

【出展：地球からの贈り物「地熱・温泉熱」と共に生きるおんせん県おおいた】

温泉熱のカスケード利用

高温の蒸気や温泉が湧出する地域では、入浴可能な温度まで冷却するために豊富な熱エネルギーを無駄にしてきました。このため、発電及び農業ハウス、暖房など多段階(カスケード)利用が目立っています。『黒田や』では蒸気発電に、温泉を冷暖房や乾燥等に利用することで有効活用を図っています。



地熱開発理解促進関連事業支援補助金

経済産業省は、地熱の有効利用等を通じて、地域住民等への地熱開発に対する理解を促進することで、地域との共生を図り、地域資源の開発を促進することを目的としたソフト事業、ハード事業、温泉影響調査等事業を対象に地熱開発理解促進関連事業支援補助金の交付を行っています。

『地熱観光ラボ緑間』は、発電後の熱水を活用する農業ハウス、足湯、地獄蒸し釜、竹工房等を設置した観光施設で、本補助金を活用して整備されています。



平成28年11月22日(火) 12:20~16:00
(スケジュール)

- 12:20 総合案内に集合。バスの停車場所まで移動。
- 12:25 ビーコン出発(大型バス)
- 12:50 黒田や(昼食)
- 13:30 大分県花きグループ
(湯けむり発電、スマート農業ハウス見学)
- 14:10 湯けむり散策
(海地獄、湯雨竹等)
- 14:50 地熱観光ラボ“緑間”
(多段階利用設備見学、試食)
- 15:20 ジオ体験コース散策
(富士屋ギャラリー、みはらし坂、ジオ体験)
- 16:00 湯けむり展望台到着、別府駅、ビーコンまで送迎

【総合ガイド】



京都大学大学院理学研究科附属
地球熱学研究施設 竹村 恵二 教授
理学博士(専攻 地熱テクトニクス、第四紀地質学)

福岡県八女市出身。35歳で別府市に赴任。別府湾から見た高崎山、鶴見岳・加藍岳の山容、扇状地、湯けむりの景観に魅せられる。研究者としての活動と共に、現在は、特定非営利活動法人別府温泉地球博物館内で、別府八湯が持つ大地の息吹を身近で感じることが出来るジオツアーを企画し、フィールド博物館 館長として活躍している。

お願い

- ① 鉄輪での行程は3kmを超えるウォーキングとなります。
- ② 体調管理にご注意ください。体調不良の場合は、スタッフにお知らせください。
- ③ 温泉配管などがありますので、やけどにご注意ください。

エクスカーショ

2. 開催状況(写真)



大分県花きグループ



大分県花きグループ



湯けむり散策



湯けむり散策



湯けむり散策



地熱観光ラボ“縁間”

